

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671600124		
法人名	社会福祉法人 よつ葉会		
事業所名	グループホームはな		
所在地	徳島県阿波市市場町香美字秋葉本80番地1		
自己評価作成日	平成24年4月1日	評価結果市町村受理日	平成24年4月

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設事業所と自由に交流を行っている。事業所の玄関前にベンチを設置し、近隣の方々との交流や通学時の小学生に挨拶をしている。玄関先には、散歩や外気浴を楽しむ琴のできる広場がある。また、広場の一面では、利用者と職員が、ともに季節に応じた野菜を植えたり、収穫や水遣り、草取り等を行ったりしてたのしんでいる。菜園の周囲にベンチを置き、涼みや藤棚を配置して木陰や休憩のスペースを作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、3階建ての1階に位置しており、他サービス事業所や防災型地域交流スペースを併設している。事業所の共有空間には利用者が自然と集い、編み物や折り紙、会話等を楽しむことのできるゆったりとした空間となっている。ボランティアによるフラダンスや絵手紙、手芸等の生きがい活動も活発に行っており、利用者の楽しみのひとつとなっている。利用者は、共有空間や居室に作品を飾っている。管理者や職員は、“和やかに、ゆったりと”をつねに心がけ、利用者の明るい笑顔を引き出す支援に取り組んでいる。協力医療機関や併設事業所と連携を図り、夜間・休日を問わず、緊急時の対応が可能な体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念を全職員でつくり確認し、地域に溶け込んでいき、併設の事業所や近隣との関係づくりを、より活発となるよう継続性の理念をもっと地域へ、住みやすさ・住み慣れた暮らしが中核となるような理念で取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義と役割を踏まえ、管理者や職員で作成した理念を掲げている。つねに理念について話し合いを行い共有化を図っている。また、年次目標を掲げて、利用者一人ひとりに寄り添って、和やかで穏やかな暮らしができるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	協力施設や併設施設での祭り、近隣の保育所・小学校・中学校との交流や文化交流（三番そう）や舞踊・歌謡のボランティアによる交流や行事（敬老会・運動会）地域の方々との交流に取り組んでいる。	日ごろから、近隣のスーパーや散歩へ出かけている。地元の小学生を菜園の芋掘りに招待したり、中学生の福祉体験学習を受け入れたりして積極的に交流を図っている。防災型地域交流スペースで様々な行事を行っており、地域住民の参加を得るなど、地域に根づいた活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する情報誌や認知症サポーターとして、パンフレットや認知症のケア・マニュアルの基本等を誰もがみたり、持参できる掲示物の設置や関わりや啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会では、年間行事や事業者の取り組みや外部評価（自己評価の重点改善計画項目等）について取り組みや認知症ケア実際についての検討事項の話し合いを通して意見を聞いたり、委員メンバーの意見交換の場に配慮している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議時には、評価に関する話し合いや防災への取り組み、認知症ケアのあり方など、様々な議題について意見交換を行っている。家族や地域住民の参加を得ており、地域で安全に生活していくための話し合いや情報交換の機会も担っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険（地域密着・包括支援センター）担当の方々に、利用者からの相談内容や対応方法等又は各種届出・評価結果や情報公開などの提出などを含め、お伺いする機会をもってサービスの向上に取り組んでいる。	書類提出等の機会に市担当窓口へ出向いて、相談や話し合いを重ね、協力関係を築いている。様々な機会を通じて市担当者に関わり、ともに問題解決を図ってサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年職場内研修を行い、月一回の職員の間や日々のミーティングで、例を交えながら普段の自覚しない心身の拘束について、職員間で話し合っている。	管理者と職員は、研修やカンファレンスの機会に、身体拘束の弊害について話しあって理解を深めている。日中、併設事業所等への移動が自由にできる状態となっている。利用者一人ひとりの気持ちを把握し、“どんなことがあっても拘束は行わない”という姿勢のもと実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員に認知症の実際をテーマに今年度の施設内研修の中で、高齢者虐待・認知症ケアの勉強会を開催し、理解していただけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人や事業所の管理者が地域福祉権利擁護・成年後見制度の研修を受け、参考資料などの回覧を行い、現在は利用されている方がいないが、制度の活用や専門の方が事業者に来られ説明等や利用について訪問されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申込み時より、事前説明での在宅訪問や契約時の説明や家人からの要望や今後のリスクや医療面に関することや生活内容等の説明を詳しく説明し、医師や看護師・医療連携等の説明と同意をへて話し合いの場を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様々をきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが同じ方向を示し、本人の支えていく為の関係づくりのため、家族に協力してもらえそうな関わりをお願いしている。	日ごろの利用者との会話や表情等から思いを汲みとり、意向や要望等の把握に努めている。家族アンケートを実施したり、来訪時に気軽に意見や要望を言ってもらえるような雰囲気づくりに留意したりして意向の把握に努めている。出された意見や要望は、カンファレンスやミーティング時に速やかに検討し、運営面へ反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の変化や気づきや利用者からの訴えや家族からの要望や意見・苦情(意見箱)を聞き、月一回のはな会議を行い管理者や法人の管理者が参加し、話し合いが出来、日々のケアにつなげるよう相互の理解に立った運営を心掛けている。	管理者は、職員が働きやすい職場を目指して、日ごろから意見を引き出す機会を設けている。月1回の職員会議への議事提案もっており、法人全体で職員の率直な意見や提案に耳を傾け、サービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務環境・職場の環境の変化に対応し、状況に合わせた勤務や勤務体制を組み、柔軟なローテーションや職員の研修や日々の悩み等も聞きながら、職員との信頼関係が築けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の実際をテーマに職場内研修を行っています。外部の研修も定期的に受講できるような配慮や研修後には、他の職員に職場内での必要な受講報告や研修報告書を出し資料等の回覧できる体制を取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所や協力施設との交流や勉強会を行い、運営委員会での学習会や市の担当者による検討会や他の事業者の状況報告等サービスの質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を重視し、利用者の意向や家族の意向にも配慮しながら、日常生活での不安や悩みを理解するように努め、その人の望む思いや、心身の状態にあった活動やあり方を探り、受け入れられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が利用に至るまでの生活状況やサービス利用状況など、ゆったり話を聞き、事業者内の見学において、ゆったりと事業所でお茶でも飲みながら様々なケースについて話を聞いたり、環境にも配慮しながら、家族との信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に行動や心理症状および中核症状への不安を少しでも軽くできる対応の確認や家族の思いや意向を聞き、サービス利用の内容や金銭的な事項や通所・短期等の利用についても話をしながら、より良いサービスや関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は厳しい人生史を耐え、そのことを職員は共有し、日々の生活の中で利用者へ教えてもらう場面を多く持ち、主役体験を用いたプログラムを活用しながら、表出や喜怒哀楽を確認し、利用者との関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様々をきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが同じ方向を示し、本人の支えていく為の関係づくりのため、家族に協力してもらえそうな関わりをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容院や馴染みへの通信(手紙・葉書・電話)交流機会や近隣への買物や住まわれていた場所への見当確認や併設施設への旧知の方との交流が暮らしの中で、交流しあえるような配慮を行っている。	同一法人の運営する併設事業所へ自由に行き来できる環境を整備し、知人や友人との交流を支援している。家族や親戚の来訪が多く、ともに出かけたり、絵手紙や電話などでの連絡を取りもったりして、これまでの関係が途切れることのないように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間やお茶の時間を職員と一緒にいき、お互いの会話を引き出しながら促したり場を盛り上げたり、それぞれのプログラムとして、主体の体験の場を提供したり、それぞれの思いを皆で共有したり、引き出せるような関わりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用期間中に入院や他の施設への転居時や契約が終了しても行事や通所やお見舞いや自宅等へ出向き、現在の状況も聞かせていただきながら、継続性が保たれるような相談や支援の体制を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、出来ることや出来ないこと、望むこと望まないことを把握し、一人一人言葉や表出での確認や、ゆっくり話せる時間や心理・行動症状の変化が生じた時は家族の意向や職員全員が話し合い方向性を確認している。	利用者や家族、関係者等から情報を得てアセスメントを行っている。日ごろの利用者との関わりのなかで、些細な動作や表情の変化等から、意向を把握するように全職員で留意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の自宅周辺の関係や家族関係や今までの基本情報作成にあたり、家族関係・知人や今までの居宅でのサービス内容の把握や、訪問時近隣の関係や暮らしの中の生活史として経過等に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で心理・行動症状や中核的な症状を理解しながら、その人の現状を確認し、出来ること、していること、出来そうなことの見出ししながら、一人ひとりの意味のある行動を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援の計画の中で、週間の支援活動や短期的な生活計画を一人ひとりが確認しながら、記録や日々の生活や活動やその日の変化や家族が訪問時に気いた事や記録等を見ていただきながら、計画の作成や生活活動評価を作成している。	利用者のより良い暮らしの実現に向けて、関係者全員で話し合いを重ねている。生活リハビリテーションや生きがい活動を取り入れ、その人らしい生活を支援していくためのアセスメントやモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活日誌を作成しており、食事・水分・排泄等心身の状況や暮らしや1日を通した活動や生活状況を記録し、全職員が目を通し、気づきや利用者のその日の変化は、いつでも生活日誌に書き込み事項や個々の情報として共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態や生活環境に合わせた、共用スペースの中で、通所サービスや空床利用時の短期利用サービスや併設施設での行事や様々な余暇的活動の交流を取り入れた多機能的な連携となるように進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続し、利用者が安心・安全な暮らしが送れるよう近隣の自衛消防隊との連携や近隣のお店でのお買物やボランティアの参加や教室への参加や保・小・中学校との交流や体験学習等の交流や文化的な交流も深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、健康管理を含む往診や緊急時の対応や本人・家族の希望や同意を得ながら、眼科や歯科の受診や緊急時の入院や通院の連件と本人・家族が納得する受診体制となっている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。関係者間で情報の共有化を図っている。専門医と連携を図っている。また、協力医療機関と連携し、緊急時の対応体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の看護師の配置や併設施設での看護師との連携を含め、介護者が日頃の観察や状態に変化が生じた時はすぐに連携し、看護師が確認し、医師への連絡や相談を行い、一人ひとりの健康管理と医療の支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による環境の変化や病状による全身症状やストレスへの負担を極力最小限で済むよう医師との連携や家族の精神的負担の軽減と早期の単院につなげるよう医師と医療機関との連携と入院時の状態の把握に努めながら、情報の交換や職員全員が同じ姿勢で共有しあえるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期への在り方を家族と相談しながら、かかりつけ医や医療機関への意向や抱疹等を確認しながら事業所のできる対応やできない部分での対応力や家族の連携も含めた意向や気持ちの変化に十分配慮しながら全職員が同じ方向で共有しあえるよう取り組んでいる。	入居時の段階で、重度化した場合や終末期のあり方に関する指針について説明を行っている。利用者の心身状態の変化に応じて、家族や医療関係者と話しあい、本人や家族の意向にそった支援を行うことができるよう対応方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や看護師が急変時や緊急時の対応や応急手当を職場内での研修やカンファレンス等で看護師も参加し(初期の対応・対処等)対応力を現場で活かせる方法や事故発生時に適切な対応ができるよう周知や話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災の想定訓練を地域の自衛消防隊の参加や、消防署員の参加も含め、夜間で想定等を含め、年2回の訓練や災害時の各部署との話し合いや災害拠点としての取り組みや災害マニュアルも作成し、地域と連携にた取り組んでいます。	年2回、近隣住民や地域の消防の協力を得て避難訓練を実施している。定期的に、協力医療機関や併設事業所等と組織した安全対策委員会を開催し、災害に備えた取り組みを行っている。防災型地域交流スペースや備蓄品を確保しており、地域の防災型拠点としての役割を担っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の意識を職場内での研修や事業所の研修を通して、職員の意識の向上を、日頃の関わりの中で、利用所の誇りや生活習慣でのプライバシーを損ねない対応と秘密の保持にも配慮し、対人・福祉サービスに係る者として確認しあっている。	利用者一人ひとりの人格や意見を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。職員は、研修や話し合いを繰り返し行って意識の共有化と向上を図り、日ごろのケアに繋げている。利用者一人ひとりの人権や自己決定を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	役割や楽しみごと、気晴らしの支援を生活の中で、押し付けることなく、必要とされている事や、出番を多く作りながら、利用者の思いや意味にある行動や活動を通して、身体電体から出る、表情や表出も確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の時間の中でその人の流れを把握しながら、押し付けることなく、利用者なりの意味のある行動を理解し、利用者が自信につながるような、本人が今何をしたいかを確認し、言葉かけや補助的アドバイスをを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類や整容等個性を大切に、背面へのこだわりや季節感のある服装や理・美容へのこだわりの中で、行きつけのお店や・本人・家族の希望による自室での（職員が理容師カット・家族カット）対応や希望にあわせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の栄養士や調理師が食事は作っていますが、食事管理・栄養管理も考えた食事となっています。また、前の畑などで野菜の菜園をしており、取れた野菜の調理をしたり、一緒に笑顔や雑談を交えながら、感覚的見当を支援している。	利用者は、下膳や台拭きなどのできることを職員とともにやっている。事業所の菜園で収穫した野菜を用いておかずやおやつを作っている。五感を刺激し、食事への関心を高める工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理や食事の管理（おかゆ・キザミ・とろみ）等への配慮や水分調整でも好みのも見ものにも変化をつけ、排泄のバランスや体調管理・食事量の変化や体重の変化にも配慮し、熱中対策等やその人に合わせた工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	事業所内に歯科衛生士の資格の職員がおり、口腔ケアについての実践的なことを指導して頂きながら、健康体操や嚥下や咀嚼に関する口腔内の清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄への促しやトイレでの誘導や色々な試みを行いながら、可能な限り自排泄に心がけています。また、腹部のマッサージや散歩や半身浴や足浴等も行って、夜間安眠できるように支援している。	排泄チェックシートを活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた細やかな支援を行っている。誘導や介助の際には、さりげない対応を心がけ、プライバシーを損なうことのないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の刺激に対して、腹部のマッサージや散歩・半身浴や足浴等も行って、利用者それぞれに合った、薬・食事（繊維質を多く取るような言葉かけ）や水分調整・ヨーグルト等の工夫を行い排泄のコントロールと便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく利用者の希望に応じた入浴を支援することができるような体制を構築している。入浴時間帯の調整や入浴回数、本人の希望する入浴日の調整、利用者一人ひとりの生活での入浴のリズム・習慣・入浴の配慮を行っている。付加的なシャワー浴や足浴への支援も行っている。	利用者ひとりひとりの習慣や希望に応じた入浴の支援を行っている。利用者の意向を大切に捉え、声かけやタイミングを変えるなどの工夫を行って臨機応変な対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	少しずつ重度化していく利用者や高齢化が進む中で本人の意思に添った安楽な休息のできる時間を作り、車イスでの座位時間の工夫や座位保持の安楽な体制にも心がけ、心身面での休息や安眠適できる支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携の看護師や事業者の看護師が薬の処方や用途・用量など服薬管理し、全職員が内容を把握し、服薬時に職員が手渡して服薬の確認を行い、臨時薬や定期薬が変更になった場合や変化にも記録を取り、看護職員と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの楽しめる活動を確認したり新しくできる活動への参加や週間での活動の中に取り入れながら、2～3名のローテーションを組んだり、皆で参加できる活動や、本人のやる気や希望に合わせた参加や役割に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春・秋には外食やお店で本人の好むお弁当やおやつを購入し、遠足や散歩を通して出かけたり、近隣での買物や夏にはアイスクリームを食べに行ったり、ドライブに出かけたり、外気浴に出かけたり、近隣を散歩したり、野菜畑にいて植えたり収穫したり草取りをする機会をつくっている。	利用者の希望に応じて事業所周辺の散歩に出かけたり、近隣の量販店で買い物を楽しんだりしている。車いすの利用者で介助が必要な場合であっても、なるべく外出の機会を増やすよう留意している。頻繁に外気浴を行っており、利用者の楽しみのひとつとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が、家族よりお金を預かり、本人持ちの財布に入れ金庫で管理し、買物の時に直接店員さんに手渡しをし、金銭感覚でのお金の出し入れや商品の値段を確認しながら、本人の好きなものを購入し、支払いできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の訪問機会を確認したり、会いたい人への手紙や家族への電話や県外の家族の方に電話を掛けてもらったり、通信による交流や手紙により交流や社会への接点を待つ喜びを感じてもらえるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや小さなテーブル、堀こたつ等に配慮し、花や利用者の作品や通路には自由に座れるソファがあり、外にはベンチや前庭には畑があり菜園や藤棚もつくり、自由に座れるスペースにも配慮し、五感への感覚や季節感にも配慮した場となっている。	利用者が作成した絵手紙や俳句等の季節の作品をリビングや共有スペースににに掲示している。利用者は、居心地の良い家庭的な雰囲気の中、編み物をしたり、会話を楽しんでいたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所では一人ひとりの好み置物やスグルミや花や雑誌や新聞等を置き、1人で過ごせるソファの配置や廊下にもソファを置いたり家族と過ごせる場所の確保やくつろげるスペースを各場所に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた物や家族の写真や掲示物を貼ったり、趣味が活かせるような椅子の配置や利用者が好む生活スタイルに配慮している。	利用者は、居室に使い慣れた筆筒や布団、小物等を持ち込んでいる。また、利用者が作った作品を壁面に飾っており、家族や知人の来訪時の会話のきっかけづくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の経験や趣味、娯楽等、個々に応じた馴染み、状況等に合わせた環境づくりを進めている。できること・できないことを、家族の来訪時に利用者や職員とともに話し合い、意欲ある生活を引き出せるか状況にあった環境づくりに努めている。		